あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール 情報誌

THE PHOENIX HALL

Salon

Vol.110 2017年9月 秋号

ホール3F 壁画 ポール・ギアマン作「ヴァイオリニスト」

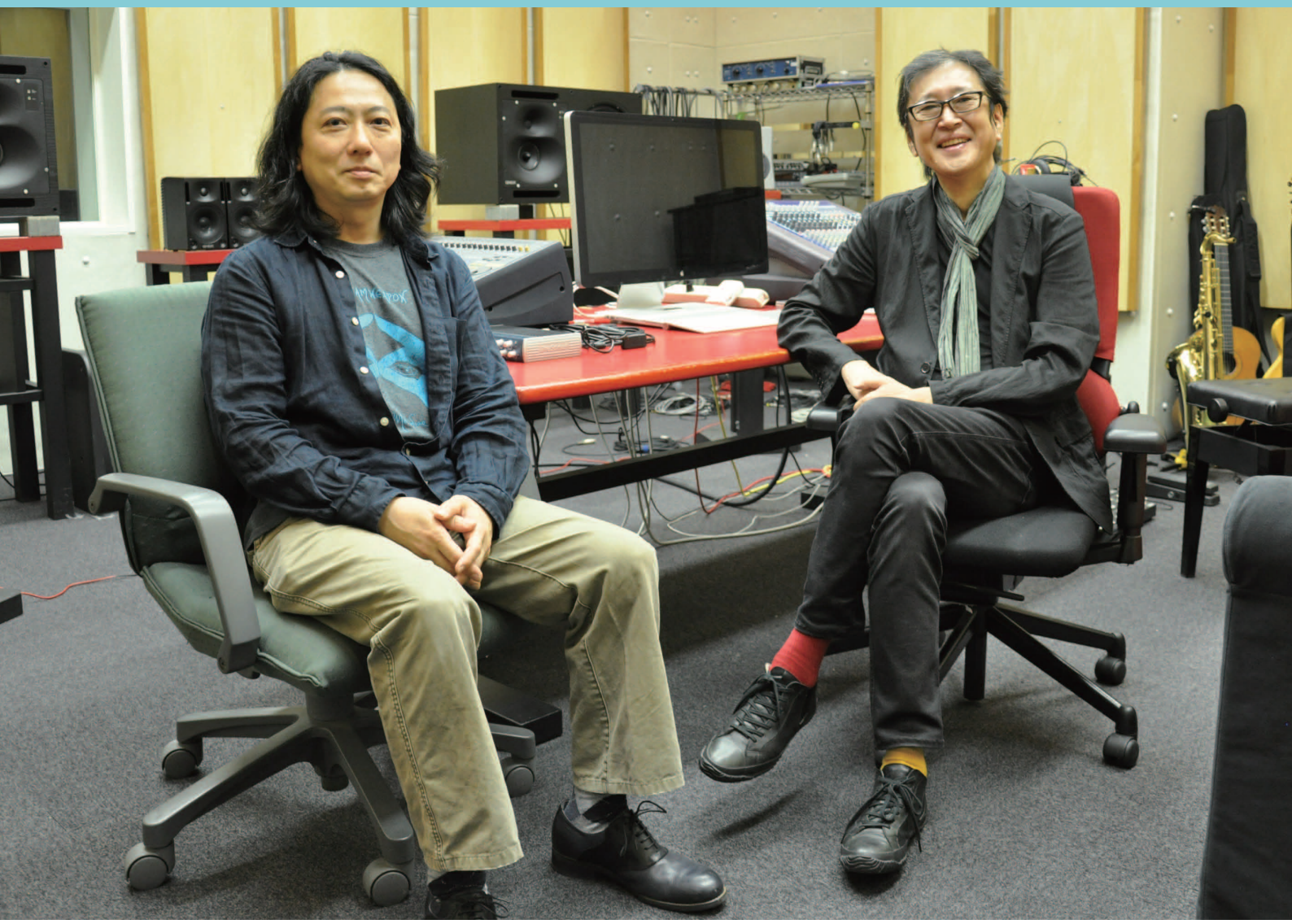
CONTENTS

01 Prime Interview — 三輪眞弘+前田真二郎
03 Phoenix Spot — 今井信子 presents J・S・バッハ レクチャーコンサート ～バッハの時代と教会音楽～ 公演に寄せて 大槻晃士
04 Pick Up
07 Essay de say — 演奏会から足が遠のくのは…… 大久保 賢

あいおいニッセイ同和損保

モノローグ・オペラ『新しい時代』を再演する

作曲家 三輪眞弘さん 映像作家 前田真二郎さん



現代音楽のフロントランナーのひとり、三輪眞弘のモノローグ・オペラ『新しい時代』が再演される。2000年4月、京都と東京で上演され、一部に強い衝撃を与えたステージの実に17年ぶりの上演である。ネットワーク上に流れ続ける未知のコードに神を見出し、自然発生的に生まれたひとつの信仰。物語はその神とともに記号化される（歌になる）ことで永遠の救済を得られると信じる少年の、最期の儀式を描く。指揮者もオーケストラも無く、登場人物は少年ひとり。彼の歌と言葉、不思議な視覚効果で構成されたこの異形のオペラは、しかし先行する作品『言葉の影、またはアレルヤ』とともに、声の生成やアルゴリズム（＊）といった三輪作品の特徴的な要素を包括し、いみじくも2000年以降、デジタルという衣をまとって急速に前景化したテクノロジーと社会の在り方に向けて、予言めいたメッセージを放ち続けている。再演を前に三輪眞弘（上写真右）と演出を手がける映像作家の前田真二郎（同左）を、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)に訪ねた。　（取材・文・写真：逢坂聖也／音楽ライター）

三輪眞弘
（みわ・まさひろ／作曲・脚本・音楽監督、情報科学芸術大学院大学（IAMAS）教授）
1958年東京生まれ。1974年都立国立高校入学以来、友人と共に結成したロックバンドで音楽活動を始める。1978年渡独、国立ベルリン芸術大学で作曲をイサン・ユンに師事。1985年より国立ロベルト・シューマン音楽大学でギュンター・ベッカーに師事する。佐近田展康と共に「フォルマント兄弟」としての創作・思索・講演活動や、CDアルバム「村松ギヤ（春の祭典）」(2012)リリースなどその活動は多岐にわたる。著書に「コンピュータ・エイジの音楽理論」（1995）、さらに「三輪眞弘音楽藝術ー全思考1998-2010」により2010年度第61回芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。旧「方法主義」同人。

前田真二郎
（まえだ・しんじろう／演出・映像、情報科学芸術大学院大学（IAMAS）教授）
1969年大阪生まれ。映画、メディアアート、ドキュメンタリーなどの分野を横断して、イメージフォーラムフェスティバル、恵比寿映像祭、山形国際ドキュメンタリー映画祭などで発表。舞台や美術など他領域アーティストとのコラボレーション、展覧会の企画も積極的にすすめている。2005年よりDVDレーベルSOL CHORDを監修。WEBムービー・プロジェクト“BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW”が、第16回文化庁メディア芸術祭・アート部門で優秀賞を受賞。

テクノロジーと人間の在り方を問う

Masahiro Miwa
Shinjiro Maeda

このモノローグ・オペラ『新しい時代』と98年発表の『言葉の影、またはアレルヤ』は、三輪さん自身によって日本での活動のスタート地点となった作品、と位置づけられています。そのあたりの事情からうかがいたいと思います。

三輪：18年住んだドイツから帰って、この情報科学芸術大学院大学（IAMAS）という新設の学校に勤めることになって、それはもう希望に燃えていた時期ではあったんですが、僕は僕なりに日本でどういう音楽活動をしていこうかっていう混乱も抱えていて、なかなか作品を作ることができなかったんですね。一方で帰国の前後には地下鉄サリン事件や神戸での児童連続殺傷事件があり、うわ、日本どうなっちゃったんだ、みたいな衝撃を受けた。そこで僕は自分が置かれた新しい環境と技術の中で何ができるかという試みとして、神戸の事件を題材に『言葉の影、またはアレルヤ』を作曲したんです。これは4人の奏者が4つの小型プロジェクターに映し出された楽譜を元にキーボードを演奏して、ノイズの中から「声」を浮かび上がらせるという作品で、この時に僕は日本での活動の第一歩を踏み出せたと感じていました。そこへオペラ作品の委嘱をいただいたんです。「歌手はひとり」とか「演奏は少人数」といった条件がありました。おそらく7人程度のアンサンブルと歌手ひとりのお芝居付きの作品、くらいのものをイメージされていたんだと思います。

その委嘱によって作曲されたのがモノローグ・オペラ『新しい時代』。宗教と神と死がテクノロジーによって結びつく物語が、非常に衝撃的です。

三輪：ある意味ではこのオペラもIAMASという環境がなければ作れなかった作品と言えるかも知れません。前作で蓄積した技術はあったし、当時はソプラノ歌手のさかいれいしうさんがたまたまここに学生として来ていて、前田さんもここで教えていて、という状況でしたから。台本は、僕がオウム真理教の事件の時に「ヘッドギア」や「洗脳ビデオ」といったまるで宗教性とは相反するようなテクノロジーが異様にしっくりと来る感じで使われていたことに驚きを覚えていたので、それを元に書きました。で、架空の宗教の儀式という設定はできたのだけど僕のイメージはまだ非常にあいまいで、それを前田さんが視覚化してくれたわけです。ですからこの作品の耳に聴こえる部分は僕の仕事なんだけれど、目に見える部分は全部前田さんの仕事、と言えると思います。

前田：僕は映像の仕事が主で舞台の演出は初めてでした。三輪さんのテキストと音楽を手掛かりに会場全体を架空の宗教儀式と設定して、まず舞台空間は、少年の部屋、4名のキーボード奏者の祭壇、大型スクリーンの3つを等分にレイアウトすることにしました。その大型スクリーンに舞台上での出来事を大写しにして信者ーお客さまのひとりひとりーに見せてあげる、というアプローチを採りました。中央の灯籠型ディスプレイに現れる楽譜を映し出したり、今しゃべっている少年の表情をアップで映し出したり。最終的には主人公である少年がネットの世界に入っていってしまう話だったので、少年のリアルな身体と映像のコンポジション（構成、配置）を中心に、「存在」と「不在」を意識しながら演出を考えていったことを覚えています。

2000年 初演時写真より

テクノロジーと人間の在り方はその後も一貫して三輪さんのテーマです。この作品が17年後の現在、再演されることにどのような意味を見出していますか。

三輪：それについては色々と考えたんですが、やる側としての今の結論は「普通に再演」という風に考えています。もちろん当時のコンピュータはないので作り直しみたいなことは多いわけですけど、とは言えアップデートはしないし、ある意味でプッチーニのオペラを今、上演するのと同じような感覚で上演するんだと考えています。ただ世の中の方が今はテクノロジーというものについて「単なる便利なもの」ではない、ということに気づき始めたでしょう？ということなんです。

テクノロジーが人間の生活に奉仕するものではなくて、それ自体が増殖し始めている、という？

三輪：一般的に言えば「テクノロジーを道具として見なす」っていうスタンスが、今までの僕らの常識だったわけですよね。僕自身はずっとそうじゃないって言って来ているんですけれども。その「そうじゃない」ってことがはっきりしたって、僕は今思っているんです。テクノロジーそれ自体がとても自立的なもので、例えば今はもうiPS細胞から遺伝子操作とか、ゲノムの操作とか、平気でできるようになっている。テクノロジーが人間それ自体を改変する段階にまで来ているわけです。身近なところでは携帯端末をすでに僕らは手放せなくなっていて、多分人類は未来永劫、新しい知覚の延長として、そのような装置を持っていくでしょう。それはもう世界中のネットワークにつながっているわけですから、現在は「テクノロジーの発達の中に人間が生きている」と言った方がリアルだと思うんですよね。

『新しい時代』が予見した未来に近づいている感じもあります。

前田：この作品を初演した2000年というのは、インターネットもまだブロードバンドが普及していない頃です。YouTubeもないし、もちろんスマートフォンもない。画像をネットでやりとりすることも一般的ではなかった。その頃と人間が肌身離さずスマートフォンと接している現在とを比べると、結局今は人間の方がテクノロジーに合わせて生活してるんじゃないか、と思うくらいの違いがあります。そういう時代の流れというのはこの作品の見られ方に、大分変化をもたらしていると思いますね。

三輪：よく言うんですが、今の人類はこれだけの人口を支えるということも含めて高度なテクノロジーとエネルギーがなかったら、もはや地球上に生きていけない状況になっている。原発事故の話も中東の戦争の話も、基本的にはテクノロジーの話です。こうしたテクノロジーへの地球規模での依存というような問題は、まだ2000年頃は見ないで済ませられたかも知れないから、当時は『新しい時代』って相当イカれた作品だという受けとられ方をしたと思うんですが、今見たら割合すんなり、そうだよね、みたいな雰囲気で理解されるのではないでしょうか。

（＊）特定の作業を実行するための定式化された手順、方法のこと。これを用いた作曲の方法を「アルゴリズミックコンポジション」という。

「伊東信宏企画 三輪眞弘+前田真二郎 モノローグ・オペラ『新しい時代』」は、2017年12月16日（土）午後4時開演。入場料は、一般3,000円（友の会2,700円）、学生1,000円（限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い）。チケットのお求め、お問い合わせは同センター（電話06・6363・7999 土・日・祝を除く平日10時～17時）。

今井信子presents

J･S･バッハ レクチャーコンサート ～バッハの時代と教会音楽～ 公演に寄せて

大槻晃士

本当にバッハがお好きなんですね、とよく言われます。ヴィオラの今井信子さんも、「あなたと話してるとバッハが弾きたくなるのよ」とおっしゃいます。どうも私のバッハ熱は感染力が強いようです。

もうかれこれ17年前の7月下旬の話ですが、ドイツのライプツィヒにある聖トーマス教会にバッハのマタイ受難曲を聴きに行きました。その演奏会はバッハ音楽祭のメインイベントとも呼べるもので、チケットは前年の1999年の暮れまでで完売となっていました。私は2000年の上旬にライプツィヒ行きが決まったので、もちろんチケットは持たないままの渡独です。前もって自作しておいた、ドイツ語と英語の「チケットを必死で求めています、どうしてもマタイ受難曲が聴きたいのです！」というプラカードを教会の脇で掲げること数時間、演奏会20分ほど前にようやく誰かが声を掛けてきました。フランスからと思われるその初老の男性は、奥様が疲れてホテルで休まれているとのこと。なんとその奥様の分のチケットを買わないか、という夢のようなお話だったのです！結局私はその男性の隣席でマタイ受難曲を堪能し、夢を一つ叶えることが出来たのですが、演奏会直後、まだ感動に打ち震えていて席を立てない私に、例の男性が「妻のチケットを買ってくれたのが君で本当によかった、君は本当にバッハの音楽を愛しているんだね、ぼくも一緒に聴いていて、君の受けていた感動に感動したよ」と言ってくださいました。

何故そんなにバッハが好きなのですか、ともよく訊かれます。いつもは「バッハが凄いからです」と一言で答えてしまうその質問は、本当なら時間をかけて、説明の材料もそろえて誠意を持って返答したいとずっと思っていました。今回のレクチャーコンサートは、私にやっと巡ってきたチャンスなのです。何故バッハが凄いのか。私の気持ちをシェアさせてください。ただしバッハ熱に感染してしまっても、責任は取りかねます。

■公演情報　『J･S･バッハ レクチャーコンサート ～バッハの時代と教会音楽～』は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドヴァイザーの今井信子(ヴィオラ奏者)プロデュース公演。2017年11月19日(日)午後2時開演。入場料3,500円(指定席)、友の会3,150円。学生1,000円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問合わせは同センター(電話06-6363-7999　土・日・祝を除く平日10時～17時)。

残席僅か！ティータイムコンサートシリーズ

郷古 廉(ヴァイオリン)&田村 響(ピアノ) デュオリサイタル

2017年10月13日(金)
14:00開演　指定席
一般¥3,500(友の会価格¥3,150)
学生¥1,000(限定数)

©Hisao Suzuki　©Akira Muto

●出演●
郷古 廉(ヴァイオリン)、田村 響(ピアノ)

●曲目●
メシアン:主題と変奏　ドビュッシー:ヴァイオリンソナタ　ショーソン:詩曲 作品25
J･S･バッハ:無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第2番 BWV1004より「シャコンヌ」
フランク:ヴァイオリンソナタ

ラデク・バボラーク(ホルン)&吉野直子(ハープ) デュオリサイタル

2017年11月24日(金)
14:00開演　指定席
一般¥4,500(友の会価格¥4,050)
学生¥1,500(限定数)

©Lucie Cermakova ©Akira Muto

●出演●
ラデク・バボラーク(ホルン)、吉野直子(ハープ)

●曲目●
クーツィール:ホルンとハープのためのソナタ 作品94
ドヴォルザーク:我が母の教えたまいし歌　ほか

郷古さんと田村さんのデュオリサイタルの全貌(プログラム)が明らかに。フランクを中心としたフランスの作品がずらりと並びました。メシアンの初期作品で幻想的な「主題と変奏」に始まり、ドビュッシーの生涯最後の作品である「ヴァイオリンソナタ」へと続きます。この曲は、第2次大戦の悲痛な状況の中で生み出されましたが、どこか遠い異国の情緒が感じられる美しいソナタです。次にショーソンの「詩曲」。ヴァイオリンの有名曲であり、静かでゆったりとした始まりから、退廃的ながらも美しく情熱的に展開されていく曲です。その後、バッハの最高傑作とも言われる「シャコンヌ」を挟み、最後は究極のヴァイオリンソナタともいわれるフランクのソナタが響きます。まさにヴァイオリンとピアノのデュオならではの演奏を楽しめる、聴きごたえ充分のプログラムです。お楽しみに。

そして、今年度のティータイムコンサートのトリを飾る、バボラークさんと吉野さんのデュオも新たなプログラムが判明。クーツィールの「ホルンとハープのためのソナタ」です。この曲はメイン曲のひとつとなると思われますが、ホルンの美しいメロディをハープが優しく包み込むような曲で、まさにホルンとハープのために書かれた名曲といえるでしょう。「我が母の教えたまいし歌」は、ドヴォルザークの中でも最も親しまれている歌曲の一つです。哀愁と情感に溢れた曲で、アンコールなどでもよく演奏される名曲です。こちらも二人にぴったりの曲といえるでしょう。是非、響きの良いあいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールで二人のデュオを堪能してください。

どちらの公演も聴きどころ満載のお勧め公演です。2公演とも残席は僅か。チケットはお早めに。それでは、会場でお待ちしております。

(あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール　宮地泰史)

フェニックス・エヴォリューション・シリーズ審査結果のお知らせ
2018年6月から2019年2月までの4公演が決定！

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールは、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社が芸術文化支援(メセナ)活動の拠点として設置、運営している音楽ホールです。優れたアーティストによる自主企画公演を開催する一方で、発表の機会を探っておられるアーティストの方々に呼び掛け、個性溢れる公演にこのホールを活用いただくことも重要な事業と位置付けています。「フェニックス・エヴォリューション・シリーズ」は、プロ・アマを問わず、音楽を愛するみなさまから公演の企画を募り、審査を経て選ばれた方々にホールと付帯施設を無料で提供しています。今回で募集は22回目となりました。2018年6月から2019年2月までの4公演の枠に、国内外から36編のご応募をいただきました。去る7月15日に選考検討会を開催し、識者の方々のご意見を伺ったあと、さらにホールで選考を進めた結果、4編の企画を入選といたしました。

本年の選考アドヴァイザー（五十音順）

竹内有一様（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター准教授）
寺西 肇様（音楽ジャーナリスト）
松本寿美子様（神戸新聞社文化部記者）
田中博子様（毎日新聞社大阪本社学芸部記者）
中川 真様（大阪市立大学都市研究プラザ特任教授）

屋野晴香ピアノリサイタル ～19世紀ウィーンへの旅～

2018年6月9日（土）

■出演
屋野晴香（ピアノ）

■曲目
ベートーヴェン：
　ピアノソナタ 第30番 ホ長調 作品109
シューマン：ウィーンの謝肉祭の道化 作品26
バルトーク：ピアノソナタ Sz80　ほか

Barrio Shino 日本初公演 “アルゼンチン・タンゴに魅せられて…”

2018年8月8日（水）

■出演
大長志野（ピアノ）、
ルイス・アルベルト・シモ（ヴァイオリン）、
ブルーノ・ルドゥエニャ（バンドネオン）、
パトリシオ・コテラ（コントラバス）

■曲目
ピアソラ：憂鬱なブエノス・アイレス
フリアン・プラサ：ダンサリン
ドミンゴ・フェデリコ：緑の薬草　ほか

Sun Bones Trombone Trio × ピアニスト金田仁美 「三声の可能性」

2018年11月14日（水）

■出演
武内紗和子、岡村哲朗、石井徹哉（以上トロンボーン）、
金田仁美（ピアノ）

■曲目
石戸谷 斉：Music for Sun Bones
デレク・ブルジョワ：
　3本のトロンボーンのためのコンチェルト
エリック・エワイゼン：トリプルコンチェルト　ほか

アンサンブル九条山コンサート Selectionsセレクションズ

2019年2月16日（土）

■出演
若林かをり（フルート）、
上田 希（クラリネット）、
石上真由子（ヴァイオリン）、
福富祥子（チェロ）、森本ゆり（ピアノ）、
太田真紀（ソプラノ）、畑中明香（打楽器）

■曲目
ブーレーズ：漂流
ジャン＝リュック・エルヴェ：飛行の夢Ⅱ
ジョルジュ・アペルギス：7つの愛の罪　ほか

Salon

アート・イン・フェニックス

ポール・ギアマン作「ヴァイオリニスト」

ホール3Fアーティストラウンジ内壁画

ザ・フェニックスホール3階通路を飾る「ヴァイオリニスト」は、1995年のザ・フェニックスホール開館にあわせ、ポール・ギアマンが特別に描いた作品の中の一点です。ギアマンの卓越した色彩表現で、オーケストラの編成をダークブルー、オレンジ、ピンクの寒暖色を対比することで立体的に捉え、スポットライトが当るかのように白色を効果的に用いています。演奏家一人一人が主役となり演奏されるオーケストラの美しい楽曲はコンサートホールを包み込み観客を魅了します。音楽をこよなく愛し、音楽会にもよく出かけていたギアマンが描いたオーケストラの一場面。緊張感と一体感が伝わる作品です。

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。
当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演

関西弦楽四重奏団
ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 全曲ツィクルス 第1回・第2回

主催　コジマ・コンサートマネジメント

発売中

<第1回>2017年11月27日(月)　<第2回>2018年1月22日(月)　両日とも19：00開演　指定席
一般前売・当日¥3,500（友の会価格¥3,150）　※友の会割引は前売のみ　第1・2回連続券¥6,000（限定数、友の会割引なし）

出演　林 七奈、田村安祐美（以上ヴァイオリン）、
小峰航一（ヴィオラ）上森祥平（チェロ）
曲目　<第1回>ベートーヴェン：
弦楽四重奏曲 第1番 ヘ長調 作品18-1
弦楽四重奏曲 第10番 変ホ長調「ハープ」作品74
弦楽四重奏曲 第12番 変ホ長調 作品127
<第2回>ベートーヴェン：
弦楽四重奏曲 第4番 ハ短調 作品18-4
弦楽四重奏曲 第8番 ホ短調「ラズモフスキー 第2番」作品59-2
弦楽四重奏曲 第15番 イ短調 作品132

2012年に結成した新鋭の弦楽四重奏団。4人はそれぞれ東京藝術大学で学び、林 七奈は現在、大阪交響楽団コンサートマスター。田村安祐美は大阪響のコンサートマスターを歴任し、現在は京都市交響楽団で活躍。小峰航一は京都市交響楽団首席ヴィオラ奏者。上森祥平（チェロ）は2016年に第14回 齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。気鋭の音楽家たちによる強い情熱の発露である関西弦楽四重奏団が音楽界に新たな活力をもたらすものとして期待される。2014年度 大阪文化祭賞奨励賞、2015年度 咲くやこの花賞受賞。

協賛公演

アトリウム弦楽四重奏団「ブラームスvsチャイコフスキー」

主催　テレビマンユニオン

発売中

2017年11月30日(木)　19：00開演　指定席　一般前売・当日¥4,000（友の会価格¥3,600）
U25 ¥2000（1992年以降生まれの方限定。公演当日、生年を証明できるものをご持参ください。）

©Maria Budtova

出演　セルゲイ・マーロフ
アントン・イリューニン（以上ヴァイオリン）
ドミトリー・ピツルコ（ヴィオラ）
アンナ・ゴレロヴァ（チェロ）
曲目　ブラームス：弦楽四重奏曲 第1番 ハ短調 作品51-1
ヴィトマン：弦楽四重奏曲 第3番「狩の四重奏曲」
チャイコフスキー：弦楽四重奏曲 第1番 ニ長調 作品11

世界的権威である、ロンドンとボルドーの2大国際弦楽四重奏コンクールで二冠を達成したロシアの次代を担う「アトリウム弦楽四重奏団」。常に新しく、魅力的なプログラム作りには定評があり、今回の来日で取り上げたのはブラームスとチャイコフスキー。いずれもロシア、ドイツを代表する偉大な作曲家。彼らを「VS」戦わせるというなんとも興味深いプログラムで待望の大阪公演が実現しました。お聴き逃しなく！！

協賛公演

なかにしあかねの世界 ～フリージアで綴る歌の花束～

主催　フリージア

発売中

2017年12月3日(日)　13：30開演　自由席　一般前売¥3,500（友の会価格¥3,150）
一般当日¥4,000（友の会価格¥3,600）　学生前売・当日¥2,000　※友の会割引は1会員2枚まで。

出演　尾上利香、韓 庚姫、島 竜子、辰己洋子、田中惠津子、
渡邉さなみ（以上ソプラノ）
井川裕子、児玉祐子（以上メゾソプラノ）
中川正嵩（テノール）、宇野徹哉（バリトン）
なかにしあかね（作曲・ピアノ）
曲目　なかにしあかね：
ケヤキ、愛されている、歌が生まれる、
立ちどまって、元気になっちゃう　ほか

関西二期会の同期生から始まったソリストの集まり“フリージア”。今をときめく作曲家『なかにしあかね』氏の作品に心打たれて多くの曲を研究してきました。その中でもメンバーが特に大好きな曲をソロとアンサンブルでお届けいたします。新譜『光』の中からはソロの曲を。氏の東京藝術大学時代から宮城学院女子大学勤務の現在に至るまでの沢山の曲の中からソロとアンサンブルを。作詞は主に星野富弘、まどみちをによるものですが、なかにしあかね氏自ら作詞を手掛けた曲もあり、どの作品もあたたかで楽しく美しいものばかりです。なかにしあかね氏自ら演奏しお話を交えながら個性豊かなソリスト達が美しく豪華な時をちりばめます。まるで～歌の花束～のように。どうぞお楽しみください。

協賛公演

東 誠三 ピアノリサイタル

主催　オランジュの会

9/13(水)発売

2017年12月17日(日)　14：00開演　自由席
一般前売¥4,000（友の会価格¥3,600）　一般当日¥4,500（友の会価格¥4,050）　※友の会割引は1会員2枚まで。

©Ariga Terasawa

出演　東 誠三（ピアノ）
曲目　モーツァルト：ピアノソナタ 第9番 ニ長調 K311
ベートーヴェン：
ピアノソナタ 第14番 嬰ハ短調「月光」作品27-2
ドビュッシー：
ベルガマスク組曲、12の練習曲 第1集、喜びの島

恒例となった東 誠三の大阪リサイタルも今年で9回目を迎える。日本音楽コンクールをはじめ、内外の審査員や東京藝大教授を務め、円熟の境地に達した東 誠三。その東が最も得意とするベートーヴェンとドビュッシーを披露する。しかも「月光」とベルガマスク組曲にある「月の光」が同じステージで聴ける機会は稀である。東の類い稀な美しい音色と、楽曲を徹底的に分析し再構成して可能となる音楽性。ドビュッシーの神髄に迫る演奏はピアノを学ぶ方々には聴き逃せない。

協賛公演

KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka No.3
今峰由香　シューベルト最後のピアノ・ソナタ

主催　コジマ・コンサートマネジメント

発売中

2017年12月21日(木)　19：00開演　指定席　一般前売・当日¥4,000（友の会価格¥3,600）　※友の会割引は前売のみ

出演　今峰由香（ピアノ）
曲目　シューベルト：
ピアノソナタ 第20番 イ長調 D959
ピアノソナタ 第21番 変ロ長調 D960

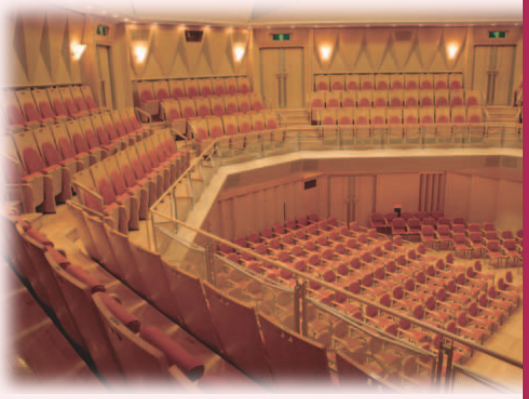
今峰が描くシューベルトは時代を超越している。（西ドイツ新聞）
いまだ記憶に残るアルトゥール・ルビンシュタインを彷彿とさせる高貴な歌……
シューベルトが楽譜に込めたものが、このピアニストの手によって、聴き手全ての心に響く迫真のリアリティでよみがえった。（シュヴェービシュ新聞）
弱冠32歳でミュンヘン国立音楽大学教授に就任。ドイツを拠点に活躍を続ける名手によるシューベルトの孤高！

貸ホール・リハーサル室のご案内

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールでは、ホール主催公演以外に、年間150件以上の貸ホール公演を開催いただいております。その多くは、関西を拠点に活動されている演奏家のリサイタルですが、なかなか、詳細をご紹介する機会がありません。

ホールでは、直近三ヶ月分の公演情報【演奏予定曲目】【前売券情報】などを掲載した「ホールインフォメーション」を毎月発行しております。貸ホール公演チラシ、「ホールインフォメーション」は、あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー 5階ホールチケットセンター・1階チラシラックに設置しております。
公演情報は、ホールホームページの「公演カレンダー」ページからもご覧いただけますので、ぜひご覧ください。

カレンダーはこちら



リハーサル室の単独利用も可能です。音楽サークルの練習やレッスン・伴奏合わせ、客席35席程度のミニリサイタルも開催可能です。こちらもお気軽にお問い合わせください。

貸ホール・リハーサル室に関するお問い合わせは・・・
あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール ホール管理グループまで
TEL. 06-6363-0311　FAX. 06-6363-0550
【営業時間：土・日・祝日を除く平日9:00～18:00】
URL : http://phoenixhall.jp/　E-mail : info@phoenixhall.jp

改修工事に伴うホール休館のお知らせ

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールでは、2018年(平成30年)に舞台機構や照明設備、空調設備等の改修工事を施工することとなり、その間を休館させていただくこととなりました。何卒ご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

◆ 休館期間 ◆

2018年(平成30年)1月25日(木) ～ 2018年(平成30年)4月30日(月・振休)

〈 お問合せ先 〉　〒530-0047　大阪市北区西天満4-15-10　あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー内
あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール　TEL:06-6363-0311(代表) (土・日・祝を除く平日9:00～18:00)

●友の会提携店閉店のお知らせ● 「なかおか珈琲 梅田新道店」が6月末をもって閉店いたしましたので、お知らせ申し上げます。

協賛公演チケットのお申込み方法

お申し込みは、お電話 06-6363-7999 またはご来店で
土・日・祝日を除く平日の10:00～17:00

■ チケットお申込み後のお受け渡し方法
下記①または②のどちらかとなります。
①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。
営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00～17:00です。
②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。
尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座　00940-0-95351　　加入者名　ザ・フェニックスホール

ザ・フェニックスホールチケットセンターは、ホール建物5階、エレベーターを降りて廊下右手です。

演奏会から足が遠のくのは……　—大久保 賢

Keizo Matsui

このところ演奏会に出かけるのがすっかり億劫になってしまった。聴きたいものがなかなか見つからないからだ——などとこうした場に記すのは些か不穏かもしれない。しかし、一人の聴き手として、敢えて思うところを書き進めてみよう。

さて、何が私の足を演奏会から遠ざけるのか。その最大の理由は、演目がほとんど「お決まりの名曲」に限られていることだ。演奏会は数多あれど、どこでも似たような作品しか聴けないとなれば、どうしたって「もう、結構」ということになる。すると、「演奏解釈の違いやパフォーマンス自体を楽しめばよいではないか」と言われるかもしれない。ごもっとも。名曲を名演で聴く歓びには格別のものがある。が、演目が限られるとなれば、「名」演に対する聴き手の要求も高くなろうというもの。ベートーヴェンの「熱情」ソナタがいくら名曲だからといって、そうそう名演に出会えるはずもない。

他方、今やCDやインターネットで聴くことのできる作品の多様さには驚くばかり。昔ならば到底聴くことの叶わなかった作品が、いとも簡単に聴けるのだ。作品だけではない。往年の超名演の録音もまた、続々と掘り起こされている。……と書いていて思い出すのは、昔々、米国の音楽評論家ハロルド・C・ショーンバーグの名著『ピアノ音楽の巨匠たち』(旧訳。近年、新訳が出た)を読んでいたときのこと。そこで描き出される過去の名人の演奏ぶりに魅せられ、マイナーな作品への興味をかき立てられつつも、「実物」に触れられないことにかなりの隔靴掻痒(かっかそうよう)の感をも覚えたものだ。ところが、今や、録音を遺した名人については容易にそれを聴け、マイナー作品の楽譜もかなりのところ見られるようになった。だが、人生の時間は有限(ということを近年、ますます強く実感するようになった私)。そこで、自ずと演奏会からは足が遠のくことに。

もっとも、それでよいと思っているわけではない。演奏会場でしか味わえない感動や興奮があるのだから。だから、時折、重い腰を上げる。そして、「生」の音楽に魅せられるのだ。が、同時にこうも思う。「ああ、もっとこうしたものが聴ければいいのに」と。これは贅沢な悩みだろうか?しかし、私と同じような不満を抱いている聴き手は存外いるのではないか。仮にそれが杞憂にすぎないとしても、現在のクラシック音楽の演奏会が新たな(若い)聴き手をうまく呼び込めていないという面は否めまい。

だとすれば、現在の演奏会のありようについてはそれなりのイノヴェーションが必要となろう。もちろん、演奏会を催すというのはそうたやすいことではなく、とりわけ採算の問題は無視できない。となると、確実に集客できそうな選曲や企画が優先されるのも当然だろう。とはいえ、その中でもうまくやり繰りして、いろいろと工夫できる余地もあるのではないか?「お決まりの名曲」自体が悪いわけではないが、それと共にもっと積極的に「知られざる」名曲・佳曲を取り上げたり、あるいは、いつもの「名曲」づくしであっても選曲と配列に企画性を持たせたりするなど。現在、世の中はいろいろな意味で転換期にあるが、クラシック音楽の演奏会も例外ではないと思う。

なお、今年最後に聴きたい演奏会はもう決まっている。このあいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールで催される「三輪眞弘+前田真二郎 モノローグ・オペラ『新しい時代』」(12月16日)だ(両氏のインタビュー掲載を校正で知る。やはり、この演奏会にはご縁がありそう)。現実と非現実が絶妙に交錯する三輪の音楽の世界は、やはり実演で味わいたい。今から楽しみでならない。

大久保 賢(おおくぼ・けん)／音楽評論家
1966年金沢市生まれ。名古屋芸術大学、京都市立芸術大学非常勤講師。主な関心領域は音楽美学、20世紀の西洋音楽、ピアノ(作品と演奏)。著書に『黄昏の調べ——現代音楽の行方』(春秋社、2016年)、訳書にジム・サムスン『ショパン 孤高の創造者』(春秋社、2012年)がある。現在、「演奏の行為論」の執筆と翻訳に奮闘中。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。
〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー5F　TEL 06-6363-0211
Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月　2017年9月
発　　行　あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
編　　集　諸藤 修一
デザイン　松井桂三有限会社